

伝統がある。 ここにしかないもの。 ふるさとが好き。



よい年になることを祈って

1月は、市内各地でいろいろな小正月行事が行われました。長い歴史を受け継ぐ、ふるさとの大切な伝統です。

まわりに何気なく存在するものが、実は、すごく貴重なものだったりすることって、ありますよね。そんな、ふるさとの文化を、いくつか紹介します。

鳥追とりおい (河辺赤平地区)

河辺赤平地区の伝統行事「鳥追い」。無病息災、五穀豊穡ほつじゆうを願う小正月行事のひとつです。その歴史は古く、三百年ほど前から行われてきたとも言われています。



雪の夜のかわいい行列

一月十五日の夜、おそろいの赤いはんてんを着た子どもたちが「鳥追いの歌」を歌いながら町内を練り歩きます。「夜鳥ホーイホーイ、朝鳥ホーイホーイ」という歌声とホラ貝の音が、しんとした闇に響きわたります。行列は三十分ほど歩いた後、岩見川にかかる赤平橋へ。紙で折った鳥に願いを込め、橋の上から川へ投げ入れました。これには、稲を食べる鳥や害虫を追い払うという意味が込められています。

親の会の田口佳宏会長は、「伝統を守るのには良いこと。町内の子どもたちも全員参加してくれて、みんなの結束は固いです。少子高齢化で子どもが減ってきてはいますが、この鳥追い行事はこれからもずっと続けていきます」と力強く話してくれました。

鳥追いに参加した石塚絵理奈さん(赤平小二年)は、「私が飛ばした折り紙の鳥は、ちゃんと川に落ちていったよ。『ホーイホーイ』って、みんなで歌って楽しかった!」と、寒さも吹き飛ばす笑顔。地域の伝統は、親から子へ、しっかりと受け継がれています。

勉強してるがあ〜(居使)



ヤマハゲ (下浜、豊岩、雄和など)

一月の中旬に、豊岩などで行われる「ヤマハゲ」。木彫りの面をつけ家々をまわり、地域のしあわせを願います。地域を愛する人たちが、その伝統を支えています。

一月十三日午後六時、豊岩^{いづかい}居使地区。恐ろしい形相の面とヨ(イ)ブスマと呼ばれるぼろぼろの衣装、手には木で作った包丁を持ったヤマハゲが、地区の家々をまわり始めました。

「うおおー、泣ぐ子はいねえがあー!」「お母さん、お父さんの言うこと聞いてるがあー」

「いじめればダメだどお、山から見てるがらなあ」

ヤマハゲにふんする五十嵐弘美さんは「最近の子どもは怖がらない。むかしは寢床に隠れた子どもの布団をはがして、怖がらせたもの」と、少し残念そうですが、それでもこの日訪れた家の子どもたちは、神妙な顔で「言うことちゃんと聞きます」。中には家に入った途端、泣き出してしまっ子どもも。

五十嵐さんは「子どもも、ヤマハゲをやる若者も少なくなってきた。でもがんばりますよ。地域みんなのしあわせを願うのはもちろん、人と人とのつ

ながりを大事に思う気持ちが生まれてくれば、という心意気で家々をまわっています」と話してくれました。

同じ豊岩の前郷地区のヤマハゲは、まさに「おつかない鬼」の雰囲気。八郎潟の藻で作ったという髪の毛と、黒く光る面、分厚いヨブスマで、さらに怖さが引き立ちます。一月十五日の夜、わら靴を履いた八人のヤマハゲたちが暗闇に歩き出していきました。

「古くから伝わってきた伝統をしつかりと守っていききたい」と話してくれたのは、町内会長の武藤幸雄さん。「ヤマハゲは町内のコミュニケーションにも貢献しています。前郷も人口は減少の一途。ヤマハゲをやってくれる若い人が増えるといいですね」と話します。

家々をまわり終え、面をとった八人のヤマハゲ。怖い面の中身は、自分が住むまちの伝統を伝えようという熱い思いを持つ、やさしい人たちでした。



面と着物で重さは20kg以上。体力も必要です(前郷)



不気味な白い面のヤマハゲ(居使)